

協働通心

令和7年3月

第4号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

『協働通心』は、地域協働合校（小・中学校や地域で、社会の変化に対応するために、子どもと大人が世代を超えて知恵を出し合い、学び合い、協力して共に活動する取組）の活動状況を、広く市民の皆さんにお知らせする情報紙です。

今回は、志津小学校と老上学区まちづくり協議会の取組みについてお知らせします！



志津小学校「食環境フォーラム」

志津小学校では、2月21日（金）に「食環境フォーラム」を開催し、身近な食に関する5つのテーマ（湖魚・米・野菜・給食・フードロス）についてグループ毎に保護者に対して発信を行いました。

児童たちは、地域の方から聞いたことや自分で決めたテーマについて調べることにより、食材の美味しい食べ方や体に良い栄養素、フードバンクについて知りました。それらをまとめ、聞き手に食の魅力について伝えました。

保護者からは「海外との取り組みの違いも知って勉強になった。まずは自分たちがフードロスを作らないように気をつけようと思った。」「アレンジレシピを試してみたい。」等の声が聞かれました。

別のグループの発表を聞いた児童からは「野菜の役割を詳しく教えてもらったので、野菜もいっぱい食べて栄養を取りたいと思った。」「お米を良く噛んで食べると血糖値の急激な上昇を抑えることができると知って、よく噛んで食べることを心がけようと思った。」等の意見が聞かれ、この学びを通して、食についての知識がより得られたと共に、フードロス等の課題に対し、自分でできることを取組もうという意識が向上しました。



老上学区まちづくり協議会「科学のあそび」

2月15日（土）に老上小学校体育館においてまちづくり協議会による『科学のあそび』が開催され、子ども56名、学生・保護者を含むサポーター18名が参加しました。

水の七変化等の実験ショーの後に、小学校低学年と高学年に分かれ、それぞれ3つずつ実験を行いました。

内容については、事前に老上学区まちづくり協議会と立命館大学ライフサイエンス研究会が相談のうえ考え、当日は子どもたちが科学の原理を理解してから実際に実験を行う等、子どもたちが実験に対して興味を持ってもらえるように工夫をしながら進めていました。

サポーターとして参加した保護者の方は、「子どもがイベントに参加している様子を見て楽しそうだなと思い、自分もサポーターになった。子どもは楽しそうに参加している。家ではできない実験を友だちと一緒にできるのが良い。」「体験を見守るので、サポーターになった。色々な学年間の交流があるのも良く、無料で参加できるのはありがたい。」とおっしゃっていました。

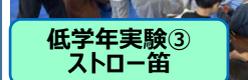
また、子どもたちからは「ストローで楽器みたいな音がでるのを作るのが楽しかった。」「知らないことがたくさんあって、とても面白かったです。特に水の色が変わるのは、すごく感心を持ちました。紙に色をつけるのは、楽しくてまたやりたいと思いました。」という感想があり、楽しみながら科学の知識も身に付けることができました。



低学年実験①
ジャイロ紙飛行機



低学年実験②
丈夫な紙コップ



低学年実験③
ストロー笛



高学年実験①
消えるお茶



高学年実験②
偏光板万華鏡



高学年実験③
ペーパークロマトグラフィー